



つくばね vol.29 no.2

目次

- 1 館長時代の思い出
- 3 開学30周年特別企画「本学図書館所蔵の貴重書」
本学図書館所蔵の貴重書（和書）の中から
- 5 開学30周年特別企画「活字と歩んだ筑波大学の30年」
「速報つくば」の誕生とあゆみ
- 7 大学図書館職員長期研修について
- 8 平成15年度大学図書館職員長期研修を受講して
- 9 図書館情報学実習生 実習体験記
- 10 Ask Us としょかんミニガイド
- 11 本学教官寄贈著書紹介
- 12 私の一冊
- 14 掲示板
- 16 とびっくす

館長時代の思い出

学長 北原 保雄

1 はじめに

本学は今年開学30周年を迎えたが、附属図書館も開学と同時に発足しているから、開設30周年を迎えたことになる。本学の附属図書館は所蔵資料の豊かさと利用のしやすさが高い評価を受けているが、当然のことながら、最初から現在のように整備されていたわけではない。もちろん発足時の設計がよかったからだが、それだけでなく、その後も改善への不断の努力が続けられてきたからである。

私は、平成5年4月から平成9年3月までの4年間、第10代館長としてよき人々に恵まれ、図書館発展のために尽力することができた。しかも、この期間は課題山積で、努力のしがいのある時期だった。思い出を含めて、この間の附属図書館の発展の歩みを振り返ることを許されたい。

2 電子図書館化への取組み

本学では、すでに昭和54年に、全国に先駆けて大型計算機によるオンライン目録システム（TU

LIPS）を開発し、計算機ネットワークにより学内外の研究者にオンライン目録検索サービス（OPAC）を提供してきていた。しかし、平成2年、図書館について全学的見地から検討を行うことになり、評議会のもとに図書館将来計画委員



会が設置された。私もその委員の一人に選ばれたが、委員会におけるさまざまな課題についての突っ込んだ検討が、後に館長になった時にとても役立つことになった。委員会は、翌平成3年、図書館の電子化の必要性等について評議会に答申した。この答申を受けて、平成3年7月に図書館電子化専門委員会が設置され、また、専門委員会のもとに研究者を中心とする電子図書館システム研究班が設置されて、電子図書館システム整備計画（平成3年度～平成5年度）が策定された。

私が館長に就任したのは、この整備計画の最後の年だったが、平成6年6月には、評議会のもとに置かれていた専門委員会と研究班が附属図書館長のもとに移管され、第一期電子図書館システム整備計画（平成6年度～平成8年度）の策定がなされた。学長裁量経費から3年間で12000万円余の配分があり、システムの整備はかなり進展した。この実績が高く評価されて、平成9年度から本学附属図書館には、国立大学最初の電子図書館として「高度発信型電子図書館システム」が導入されることとなった。

このシステムは、本学で収集・生産・蓄積された学術的価値の高い資料の原文を電子化し、全世界に向けて発信するものだが、学位論文の全文入力の第1号に私の論文を指定してもらったのも嬉しい思い出である。なおこれには裏話があって、私の論文は書籍として刊行されており、その出版社も電子化を快諾していて著作権の問題は全くなかったのに、オリジナルの方がいいというような理由で、原稿用紙にペン書きの学位申請論文の方が電子化されている。手書きの文字を見るのは毎度恥ずかしいことである。

3 中央図書館新館の建設

電子化とともに重要課題だったのは、中央図書館の増築である。中央図書館の蔵書はすでに収蔵能力をはるかに超えているのに、毎年5万冊ほどの書籍が増え続けている。増築の概算要求は昭和58年から10年以上継続して行ってきた。

図書館将来計画委員会の答申においても増築が急務であることが強調され、これを受けて、平成

3年には図書館増築実務委員会が設置され、増築の基本計画を策定し、実務レベルの調査・検討が重ねられた。しかし、なかなか概算要求は認められない。新館を建てた館長は銅像が建つなどという人もいるほどの難題で、長い間の懸案だった。

それが私が館長に就任した年の補正予算で認められたのだ。私は幸運に心から感謝した。いつの日だったかは忘れたが、よく晴れた日の朝早い時間だった。小野寺事務局長から館長室に電話がかかった。平成5年度の第2次補正予算で、増築の概算要求が認められたという報せだった。私は狂喜した。局長の声も興奮ざみでやや上ずっているように聞こえた。

平成6年4月5日に起工式、平成7年3月に竣工、そして、同年6月1日には中央図書館新館竣工披露式が盛大に開催されたのだった。

4 常設展、特別展のこと

新館が完成して、貴重書や和装本関係の施設が充実した。貴重書庫は完璧のものになったし、壁面展示ケースを設け、照明装置等にも配慮した貴重書展示室も新設された。

早速、貴重書展示室で、新館完成を記念して特別展「天正少年使節と『原マルチノの演説』」を開催することになった。開催期間は平成7年6月1日から8日まで、新館披露を兼ねてのものだった。その後も、貴重書展示室では、平成8年10月23日から11月10日までの長期間、特別展「幕末・明治の生活と教育」を開催し、多数の来館者があった。

私が館長を退任してからも、何回かの特別展が開催され、今年も9月29日から10月10日までの間、「附属図書館貴重図書特別展」が開催されることになっているが、いささか残念だったのは、平成12年5月22日から6月9日にかけて開催された特別展「筑波大学附属図書館所蔵日本美術の名品」を私の館長時代に開催できなかったことである。この特別展では、石山寺本の「大智度論」「瑜伽師地論」などと、今回新発見の狩野探幽・尚信の屏風絵などが展示されたのだが、前者の仏典類は、戦後、私の所属する研究室の先生が購入した、私

にとっては美術品というよりは専門分野の研究書であるし、後者の屏風絵は館長として調査すれば発見できたはずのものである。

それはともかく、貴重書展示室では、平時は、常設展「日本の出版文化」が継続開催されることになっている。展示室開設の時から図書館公開係が置かれるようになったが、これは大学図書館では珍しい係ではないか。

5 図書館ボランティアのこと

図書館ボランティア受入れに関する検討委員会が設置されたのは、就任早々の平成5年4月19日だったが、検討に時間がかかり、図書館ボランティアの公募を開始したのは平成7年3月16日になってしまった。5月30日に発足式が行われ、選ばれた43名の方々に活動時に着用するネームプレートとボランティア許可証を私から交付した。生涯学習に対応した大学図書館サービスを展開するために導入したものだが、国立大学での図書館ボランティアは初めてだということでマスコミや類似の組織などに注目された。

平成7年12月5日には図書館部職員とボランティアの交流会が持たれ、また、平成8年6月4日にはボランティア発足一周年を記念して、記念式を開催し、私が記念講演を行った。今、私の手に「図・ボラの会」広報部編集発行の「うたがき」創刊号(1996.9.2)がある。これには、私も期

待する一文を載せているが、現在も「うたがき」は健在とのこと、嬉しいことである。

6 終わりに

4年の間にはまだまだいろいろな発展があった。平成6年4月には、国立大学図書館協議会関東地区の常任的地区連絡館となった。初めて関東地区の代表的理事館となったのである。平成8年2月には、図書館専用電子計算機システムを更新した。この時は学術情報処理センターの大型計算機との関係調整がいささか大変だった。同年3月には、附属図書館概要(和文・英文)を全面改訂し、また、筑波大学和漢貴重図書目録を刊行した。そして、個人文庫を設置できるように規定を改め、同年10月と11月に、宇野文庫と竹内文庫の寄贈を受けた。また、平成9年3月には、大型コレクション「中国第一歴史档案館所蔵歴史档案資料」を購入することができた。

個人的には平成8年8月12日、集会室で還暦の祝賀会を盛大に催してもらったことが忘れられないし、親睦会による暑気払いや忘年会も楽しかった。この文章には個人の名前は出さなかったが、それぞれの場面で多くの人の顔が浮かんできた。関係者の皆さんには、その場面を思い浮かべながらお読みいただければ幸いである。

(きたはら・やすお 筑波大学長)

開学30周年記念特別企画「本学図書館所蔵の貴重書」

本学図書館所蔵の貴重書(和書)の中から

大倉 浩

今回の開学30周年特別企画に展示する貴重書の選定を、日本文学の石埜先生とお手伝いしましたが、日ごろは目録や写真でしかお目にかかれぬ貴重書も、改めて実見してみると色々わからないこと、見直しが必要なことが出てき

ます。この機会に、私の専門である中近世の日本語に関連する貴重書について、図録に書ききれなかったことを少し書かせていただき、御覧になる皆さんに何か参考にしていただければと思います。

謡本 二十七番(うたいばん にじゅうななばん：27冊)

慶長8(1603)年，同11(1606)年 観世身愛筆。

謡本とは，能の詞章に節付けを傍記した譜本で，脚本というより，謡を稽古(けいこ)するためのテキストでした。本書は，観世流九世大夫，観世身愛(ただちか，忠親，のち隠居して黒雪とも)筆写になる27番の謡本で，由緒や古さからも貴重な本です。さらに筆写した観世身愛という人物が，徳川家康の後援を受け確固たる地位を得ながら，この本の筆写後の慶長15

(1610)年，突如高野山に籠(こ)もってしまうなど謎の多い人物であり，後年復帰して観世流の詞章の改訂や謡本の刊行(『元和卯月本(げんなうづきばん)』百番)にも深くかかわった観世流の重要人物です。その身愛の前期の謡本ですから，その詞章が後年の刊行のものとのような異同があるか，調べる価値のある本です。実際に元和卯月本と比較すると，様々な違いが見られます。また，この本自体が大名家で愛蔵されていたもので，曲名入りの蒔絵の見事な箱がそれを物語っています。



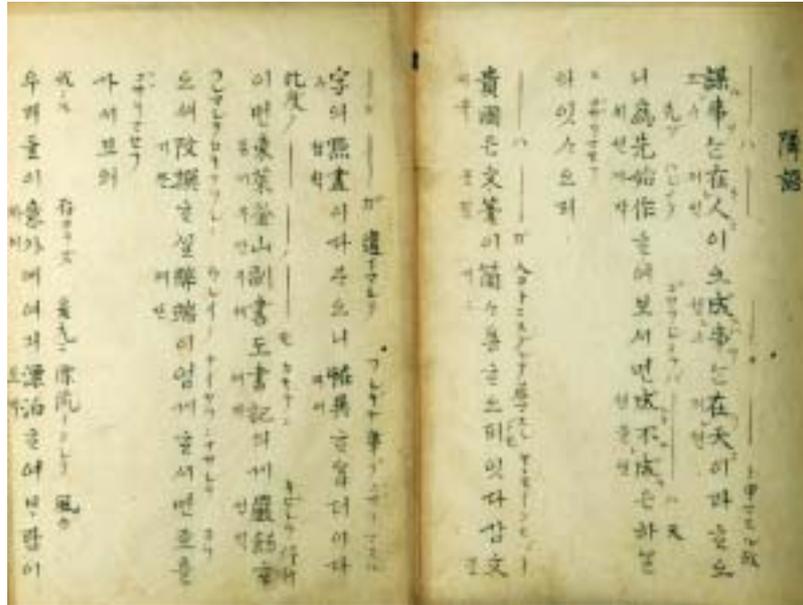
隣語大方(りんごたいほう：1冊江戸中期書写か)

江戸時代の日本人が朝鮮語を学習するために編纂した，日朝対訳の例文集です。李朝正祖14(1790)年に朝鮮で刊行されている朝鮮版があり，日本では本書など，数種が写本で残るのみで，刊行されたのは明治15(1882)年，ただしそれぞれに異同があり，日本版と朝鮮版どちらが先なのかを含めてどのような編纂過程を経て成立したか，不明のことが多い文献です。

その中で本書は九巻完備しており，序文も持つ

ている点でも，『隣語大方』成立の鍵を握る写本といってよいでしょう。ただ，序文にも誤写があるようで，「伝五郎」や「金夢霖」などの人名や対馬藩を中心とした日朝交流史を踏まえての慎重な考証が必要のようです。序文の干支「辛未」も1751年と推定されていますが，果たしてそこまで古いかどうか，疑問も残ります。

また，記された日本語を見ると，
貴国ハ文筆ガ人コトニスグレテ居マスレドモ
ヤヤモイタセバ文字ニ点画ガ違イマシテ フシギ
ナ事デゴザリマスル (巻七)



のように、江戸時代の外交・交易の場でどのような日本語が使われていたのかを知る貴重な資料で

す。

(おおくら・ひろし 文芸・言語学系助教授)

開学30周年記念特別企画「活字と歩んだ筑波大学の30年」

「速報つくば」の誕生とあゆみ

山崎 敏誉

「速報つくば」構想は、筑波大学創設期の学内広報活動を検討する中で誕生した。

昭和48年10月の開学時、企画調査室準備委員会が設置され、翌年5月に現在と同じ企画調査室となる。当時の企画調査室は、学長と副学長に一名ずつの室員が対応する相談役体制をとっていた。開学時の混乱で、プランニングというより種々雑多な仕事と苦情処理に忙殺されていたとある。そんなさなかでも小冊子「広報筑波」を刊行するなど学内情報伝達の努力を払っていたが、根本的な解決策とはならなかったのであろう。昭和49年9月3、4日に開催された筑波大学長期計画シンポジウムで、学内の不満不安解消の当面の手段と恒久的なコミュニケーション・システムの確立について論じられ、決定された一つに「学内の動きを教職員及び学生に向けて速報する。」があった。

翌月、開学1周年である昭和49年10月1日、「広報筑波」は第4号を発行し任を終える。これ

を引き継ぐ形で、同日「速報つくば」のデビュー。速報性に重点を置き、400字詰め4枚。電話かメモによる情報を基とし編集で手を入れる。土曜日原稿渡し、火曜日配布。発刊番号は100年でも4,000号程度となる通し番号。気軽に読み捨て出来るよう綴り穴を設けない等が掲げられた。報道方針として、「会議の場合は結果もさることながら途中経過を知らせ、意見があれば会議のメンバーに直接連絡を入れてもらう。したがって網羅的に議題を知らせるだけでも良く、それを活用するか否かは個人の問題である。」とあり、途中多少の変遷はあったものの、現在に共通する。

この寄稿を機に初めて見た創刊号。編集後記に「官報的なものでなく、“かわら版”的に編集するので気軽に読んでいただきたい。」とある紙面は、B4判白紙の両面印刷二つ折り。手書きの風景イラスト。速報性重視の週刊。紙面の関係からか活字も小さく印刷も粗い。その飾り気の無い紙面が

ら受ける印象は、かわら版そのものである。

51号（昭和50年11月11日）から英文の副題「STAFF BULLETIN」が採用された。企画調査室関係者がカナダの大学から持ち帰った印刷物を参考としている。

429号（昭和59年4月10日）で紙面を一新、「STAFF BULLETIN」の「SB」ロゴが作成され、入学式風景写真が掲載される。この身近な出来事の写真掲載開始は、多くの印刷物が陥った官報化からの回避を手助けしたのではないだろうか。

「速報つくば」活性化のアンケートは平成4年の6月に行われた。アンケートの結果を受け、9月以降は現在と同じ隔週発行となる。808号（平成4年9月30日）には、掲載要望のあった記事についての原稿提供依頼 取り扱い会議の範囲指定、文体の統一 締め切り日時の変更等を掲げている。紙面にも変化があった。それまでは「企画調査室発行」とだけあったものが、編集と発行を明確化すべく「広報公開室編集・企画調査室発行」とされ、翌809号から記載される。さらに、読者が求めているのは会議の検討状況であると分析。会議記事は簡単な議事録風にと担当部局に依頼文を出した。しかしながら、今は原点の「網羅的に議題

を掲載する」姿に戻りつつある。

当然のことながら、「速報つくば」も行政文書のA判化に呼応した。832号（平成5年10月14日）からである。記事は開学20周年記念式典を掲載し、「SB」のロゴも現在のものに刷新された。

「速報つくば」への検討はその後も続けられ、平成8年4月30日に、「速報つくば」の発行について（申し合わせ）」が定められた。現在の速報つくば発行はこれに基づく。

昨今は、電子情報技術の進歩、普及が著しい。「速報つくば」も980号（平成12年2月9日）からウェブ版を掲載している。そして、目前にブロードバンド時代。大量データの送受信が可能となった場合における広報刊行物のありかたはどうあるべきか。情報の受け取りの電子化がほぼ完了した現在、発信について考える時となっている。メールマガジンの配信についても検討されつつある。

先達たちは、「速報つくば」を時代にマッチさせ発展させてきた。今、また新しい時代の流れが起きようとしているが、先達に倣い「速報つくば」の発展に少しでも寄与できればと思っている。

（やまざき・としか 企画部大学広報課）

「速報つくば」編集：筑波大学広報・公開室
発行：筑波大学企画調査室
中央図書館本学関係資料室に所蔵



「速報つくば」第1号のイラストと編集後記



大学図書館職員長期研修について

田中 成直

平成14年10月の図書館情報大学との統合により、標記の研修を本学と文部科学省との共催で開催することとなった。この研修について紹介する。

この研修は、昭和44年に第1回目が文部省と図書館短期大学との共催により、図書館短期大学などを会場として開催された。当初は「大学図書館専門職員長期研修」と呼ばれていたが、昭和46年に専門の二字を削除し現在の名称になった。

研修の目的は、「大学における教育・研究活動の急速な発展に伴い、大学図書館が、利用者が必要とされる図書館資料および学術情報を、的確、迅速かつ網羅的に提供することの重要性がますます高まっている。このためには、利用者の高度な要求に即応した体制を整備する必要があり、その一環として図書館業務の合理化、標準化および機械化による能率向上と、積極的に行う書誌的情報の提供等のサービスの質的改善を図らねばならない。(中略)これらに必要な最新の知識および技術を、相当の経験を有する図書館職員に習得させ、その資質の向上を図り、大学図書館の近代化を促進する。」こととなっており、現在とは多少文言は違うが、基本は変わっていない。

受講資格は、大学図書館において専門的業務に10年以上従事した経験を有し、おおむね40歳以下の図書館職員で、定員は30名であった。昭和47年からは公私立大学図書館職員への枠を広げ、毎年40名前後の受講生を受け入れてきた。

研修は、毎年夏の暑い時期に合宿形式で行われてきた。昭和44年は3週間、昭和45年から昭和54

年までは約4週間、昭和55年からは現在の3週間の日程になった。また、昭和54、55年は図書館短期大学が図書館情報大学に昇格・移転した時期に当たり、東京大学と東京学芸大学がそれぞれ事務を担当し、昭和56年から昨年まで図書館情報大学が担当してきた。

講義要綱*が毎年作成されており、その年にはどのような講義・実習・グループ討議・見学が行われてきたかが分かる。昭和40年代、50年代は大学図書館業務の機械化やインフォメーション・サービス(特にレファレンス・サービス)について、最近では電子図書館やインターネットについて相当な時間が割かれている。講義内容は毎年見直されており、その年の課題等に対応したテーマが選ばれている。

本研修は35年の歴史の中で、多くの図書館職員を育ててきた。特にここで培われた人間関係はその後の図書館活動でも十分に生かされていると仄聞する。国立大学図書館協議会でも、今後とも必要な研修として位置づけられており、来年度以降も受講生からのアンケート等をもとに、カリキュラム等の一部見直しを行いながら、本学と文部科学省との共催で実施する計画である。

詳しくは以下のページをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken>

*図情図書館で所蔵
(たなか・しげなお 図書館部情報サービス課長)



平成15年度大学図書館職員長期研修を受講して

近藤 務

平成15年7月7日から24日まで、東京と筑波地区で行なわれた大学図書館職員長期研修に参加しましたので、簡単に報告させていただきます。

研修は、講義・グループ討議・施設見学から構成されていました。講義は

- ・大学図書館の管理・運営
- ・大学改革と図書館
- ・電子図書館的機能の整備とその推進
- ・学術情報の流通
- ・多様化する情報サービス
- ・社会の変革と大学図書館

の分野に渡る非常に密度の濃い内容でした。

大学図書館の管理・運営の講義では、来年度に控えている国立大学法人化が図書館に及ぼす影響について説明がありました。今まで国立大学図書館の法的地位の根拠となっていた国立学校設置法に代わって、国立大学法人法が施行されます。新しい法律では、学部学科を含め大学に何を設置するのかが一切定められていません。法人化後の大学で、図書館の位置づけをどう学内外にアピールしていくかが非常に重要であるとの説明を何度も受けました。ただ、講義をしてくださった先生方は皆積極的で、法人化を「図書館がいままでやりたくてもできなかったことを新しく始めるチャンス」と見ている方ばかりでした。

本学図書館でも利用の多い電子ジャーナルについては、電子ジャーナルの購読に固有の問題について説明がありました。すなわち、

- ・現在入手できる電子ジャーナルの大部分は、冊子体の購読が前提になっていること。従って、「電子ジャーナルがあれば冊子体を止めても良い」というわけにはいかないこと。

・購読を中止した場合、冊子体は過去に購入した分は現物が残るが、電子ジャーナルは契約を止めた途端にすべて閲覧できなくなってしまうこと。

・電子ジャーナルの価格は値上り傾向にあるため、そのための予算を確保することが鍵であること。

などです。特に最初の二つの点については利用者の皆さんが良く認識されていないとの指摘がありました。本図書館で7月30日から行なわれた「電子ジャーナルと文献情報データベースについてのアンケート」でもそれを裏付ける回答が目立ち、広報の重要性を感じました。

さて、今回の長期研修の中で最も印象に残ったのは、国立国会図書館で古文書の修補をしている部門の見学でした。職員の方が「200年残る仕事をしていますから」と静かな口調で説明して下さったのが忘れられません。我々の中で、一体何人が「百年単位で残る仕事をしています」と自信を持って言えるのでしょうか。彼等を非常に羨ましく思いました。

長かった三週間の研修ですが、私にとっては他大学の職員と繋がりが持てたことも大きな収穫だったように思われます。彼等は皆しっかりとした問題意識を持っていて、自分にとって強烈な刺激となりました。

最後になりましたが、長期間の研修への参加を快く許していただいた筑波大学附属図書館の皆さんにお礼を申し上げます。

(こんどう・つとむ 図書館部情報システム課
システム管理係長)





図書館情報学実習生 実習体験記

今年は、7月7日(月)～25日(金)の3週間、図書館情報大学の学生12名が、中央図書館を中心に図書館情報学の实習を行いました。

田才 孝子

今回、筑波大学附属図書館では、様々な係を数日間ずつ回って実習させていただきました。そのため、利用者の方と直接関わる業務と、利用者とは関わらなくても、図書館の運営にとって重要な業務を両方とも体験することができました。また、短い期間ではありましたが、複数の係を回ったので、各係ごとの業務内容だけでなく、各係同士の協力や、係を越えてどのように業務が流れていくのかなど、図書館全体がどのように運営されているのかを中において感じることもできました。

実習中は大学で講義を受けていて良かったと思うこともありましたが、ほとんどは知っていても上手くできないこと、初めてやることだらけでした。レファレンスでの蔵書検索などは、大学でも何度もやっていることなのにまだまだ早くできませんし、雑誌受け入れのシステムや相互貸借のシステムなどは使ったこともなく、なかなか上手く使えませんでした。システムを扱う以外の業務でも、この図書館のことを良く知っていませんし、知識としてはあっても、実習の中で教えていただくのが新鮮で、より理解が深まるように思います。

3週間という短い期間では、全ての係を回ることとはできず、残念ではありましたが、本当に貴重な時間を過ごすことができました。いつも丁寧に対応して下さった筑波大学附属図書館の方々に、心から感謝しています。

(ださい・たかこ 図書館情報学科3年)

富田 恭子

今回の図書館情報学実習で、私は医学図書館業務・レファレンス業務などの利用者に直接サービスを提供する業務と、図書受入係や収書計画係などの利用者からは見えない業務の両方をさせていただき、大変多くのことを学ぶことが出来ました。その中でも大学の講義では学ぶことが出来ない、図書の発注データの入力や図書の登録・採番など図書が配架されるまでの工程を実際に見ることが出来たことはとても貴重な体験になりました。逆にレファレンス業務では講義で学んだことを少しでも生かしたいと思っていましたが、実際にカウンターに座ってみると、講義と現場ではやはり違うこと、講義で学んだことだけでは不十分であることも実感しました。

また、最後の希望体験実習で体芸図書館でも実習することができ、三つの図書館それぞれの業務の特徴に気づくことも出来ました。中央図書館では細分化されている業務を医学・体芸図書館では少ない人数で行わなければならないということが最も印象に残りました。大きな図書館で実習してみたいと思い筑波大学附属図書館を希望したのですが、同時に規模の小さい図書館でも実習することができ、とても良い機会であったと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださり、とても丁寧に指導して下さった筑波大学附属図書館の皆様にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

(とみた・きょうこ 図書館情報学科3年)

法常 知子

今回の図書館実習では、カウンター業務、目録作業、雑誌サービス、視聴覚メディアサービス等を体験しました。図書館の業務を様々な角度から知ることができました。

カウンター業務は利用者と直接、対面する仕事でした。貸出、返却のほかに、利用者からの質問、そして時には苦情、たくさんのことに対応しなければなりません。まるで、接客業のようでした。そして、目録作業はずっと、パソコンの画面を相手に作業します。作業を進めていく上で、何度も間違いがないかチェックします。目録に間違いがあっては利用者が資料を探しにくくなり、困ります。だから、何度も何度も確認し、見直しながら作業していくのです。とても大変でした。

この実習で、図書館業務についてのキーワードを一つ学びました。それは「利用者本位」ということです。図書館は利用者の要求に応え、そして、利用者が図書館をもっと活用してもらうには何をしたらよいか、答えを見つけながら仕事をしていかなければならないということを考えさせられました。図書館の業務は利用者からは見えないものが多かったです。しかし、それらの仕事は利用者が図書館を使いやすいようにするためのことばかりでした。

今回の実習で私は多くのことを学ぶことができました。指導して下さった職員の皆様、本当にありがとうございました。

(のりつね・ともこ 図書館情報学科3年)



ASK US

としょかんミニガイド

EPICWIN7000について



中央図書館には、平成13年度より、精細なデジタル画像で貴重な書籍を保存できる、ミノルタの高性能ブックファイリングシステム（以下EPICWIN7000）が導入されています。このシステムは、相手側PCにこのシステムに対応したソフトウェアがあれば、ネットワークを介して情報を幅広く効率的に利用できるという特徴を備えて

います。

中央図書館では、同様のシステムを持っている他の大学図書館との相互利用業務の手段としてこのシステムを使用しています。また9月からは、東京の大塚図書館との間でもこのシステムを使った筑波・東京地区間の学内相互利用業務を開始いたしました。

システムの特徴

EPICWIN7000は、スキャンする面を上に向けたまま撮る方式なので、原稿を下向きに押さえつける必要がありません。厚い書籍や貴重な資料でも、ページや装丁に負担をかけることなく、やさしく撮ることができます。また、ページの湾曲にあわせてスキャンした画像を自動補正するため、これまでのように綴込み部分に影が出ることもありません。

スキャニングは最大A3サイズまで可能です。また、最大600dpiのデジタルスキャンを行うので、細かな文字や線なども忠実に再現し、高精細、高品位な出力が可能です。出力前にスキャンした画

像を確認できるため、ミスやロスも軽減できます。さらに、スキャンする面を上に向けたまま撮る方式ですので、その都度原稿を裏返す手間がいらず、スムーズに作業をすることができます。

このシステムの学内での利用

現在中央図書館では、著作権が消滅しており、それほど劣化しておらず、スキャンに耐えられると判断された資料に対して、EPICWIN7000を利用することができます。

受付 中央図書館 2階新館 相互利用係窓口
利用時間 9:00 - 12:00 ,
13:00 - 17:00
1枚あたりの料金 学内者:20円
学外者:35円

EPICWIN7000の利用についてのお問い合わせ、質問等ございましたら、図書館部情報サービス課相互利用係（内線2373）までお願いいたします。

（相互利用係）



本学教官寄贈著書紹介

平成15年4月～6月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

（敬称略，寄贈者五十音順，所属は平成15年度のものです。〔 〕内は配架場所と配架番号です。）

明石紀雄（名誉教授）

- ・100年前のアメリカ / 佐々木隆〔ほか〕共編・修学社，1995〔中央 253.065-Sa75〕

安藤隆男（心身障害学系）

- ・自立活動における個別の指導計画の理念と実践・川島書店，2001〔中央 378-A47〕

石田東生（社会工学系）

- ・都市の未来 / 森地茂，篠原修編著・日本経済新聞社，2003〔中央 518.8-To72〕

伊藤益（哲学・思想学系）

- ・歎異抄論究・北樹出版，2003〔中央 188.7-I89〕

北原保雄（学長）

- ・岩波日本語使い方考え方辞典・岩波書店，2003〔中央 810.4-I95〕

功力靖雄（名誉教授）

- ・試合のマニュアル・ベースボール・マガジン社，2002〔体芸 783.7-Ku48〕

熊谷恵子（心身障害学系）

- ・先生のためのスクールカウンセラー200%活用

術・図書文化社，2003〔中央，大塚 371.43-Ku33〕

庄司進一（臨床医学系）

- ・筑波大学：人間を理解する臨床医学：vol.1,2・トロワモンジュ，200-〔医学 490.145-Sh96-1,2 AV〕

- ・新しい医学教育の流れ / 高橋優三編著；鈴木康之〔ほか〕著・全国共同利用施設岐阜大学医学部医学教育開発センター，2003〔医学 490.7-Ta33-2002〕

鈴木光剛（名誉教授）

- ・畑作物の水質環境 / 畑地農業振興会，2003〔中央 614.3-Su96〕

園山繁樹（心身障害学系）

- ・自閉性障害の理解と援助 / 小林重雄〔ほか〕共編著・コレール社，2003〔中央 493.937-Ko12〕
- ・総合人間学概論 / 小田正枝共編・ヌーヴェルヒロカワ，2002〔中央 492.901-017〕

田林明（地球科学系）

- ・北陸地方における農業の構造変容・農林統計協会，2003〔中央 612.14-Ta11〕

田宮菜奈子（社会医学系）

- ・ソーシャルワーカーのための医学 / 奥山真紀子〔ほか〕共編・有斐閣，2002〔社会福祉基礎シ

リーズ：15)〔医学 490-O57〕

・ジェンダー医学 / 芦田みどり編 . 金芳堂 , 2003
〔医学 495-A92〕

常盤繁 (図書館情報学系)

・マルチメディアデータ入門 . コロナ社 , 2003
〔中央 , 図情 007.6-To33〕

徳田克己 (社会医学系)

・ヒューマンサービスに関わる人のための人間関係学 . 文化書房博文社 , 2003 〔中央 , 医学 361.4-To35〕

・講演集 こころのバリアフリ - を考える . 大森公共職業安定所 〔中央 , 医学 369.27-Ko44〕

・ヒューマンサービスに関わる人のための児童福祉論 / 水野智美〔ほか〕共編著 . 文化書房博文社 , 2003 〔中央 , 医学 369.4-Mi96〕

林一六 (名誉教授)

・植物生態学 . 古今書院 , 2003 〔中央 471.7-H748〕

一二三朋子 (文芸・言語学系)

・接触場面における共生的学習の可能性 . 風間書房 , 2002 〔中央 810.7-H54〕

藤川昌樹 (社会工学系)

・橋本の町と町家 / 橋本の町と町家の研究会編集・調査 . 橋本市 , 2002 〔中央 521.86-H38〕

堀輝三 (名誉教授)

・写真と資料が語る日本の巨木イチョウ . 内田老鶴園 , 2003 〔中央 478.5-H87〕

守屋正彦 (芸術学系)

・すぐわかる日本の絵画 . 東京芸術 , 2002 〔中央 , 体芸 721.02-Mo72〕

若林幹夫 (社会科学系)

・未来都市は今 . 廣済堂出版 , 2003 (廣済堂ライブラリー : 21) 〔中央 361.78-W17〕



私の一冊

徳田 克己

『ヒューマンサービスに関わる人のための人間関係学』

(文化書房博文社)

〔中央 361.4-To35〕



これまでに刊行されている人間関係に関する図書は、社会心理学の対人関係、コミュニケ - ショ

ン関係の知見が紹介されているものが主であり、個別の職業(特に専門職)養成のテキストや教養書としては一般的すぎていて、物足りないものでした。本書は対人サービスを内容とする専門職の養成段階や現職者の研修等で使用できるように、心理学的な知見だけではなく、サービス対象(患者、高齢者、子ども、障害者など)との良い人間関係を形成するために、また職場(学校、施設、病院)における人間関係を正常化するために、どのようにすれば良いのかについて、その経験を豊富に有する執筆者によって「具体的、経験的に」かつ「客観的、科学的に」、しかも「教育的視点から」解説してあるものです。

具体的には、社会的ひきこもりや付き合い合っていない人などの病理的な問題、親子関係、夫婦関係、子どもとの関係、恋愛・友情・同性愛、痴呆高齢者との付き合い方、ボランティアの人が障害者との人間関係をうまく作る方法、病者との付き合い方や病院内での人間関係、教師と子ども・



教師同士・教師と保護者などの学校内での人間関係、福祉施設の中での人間関係、アニマルセラピー・携帯メール中毒などが取りあげられています。

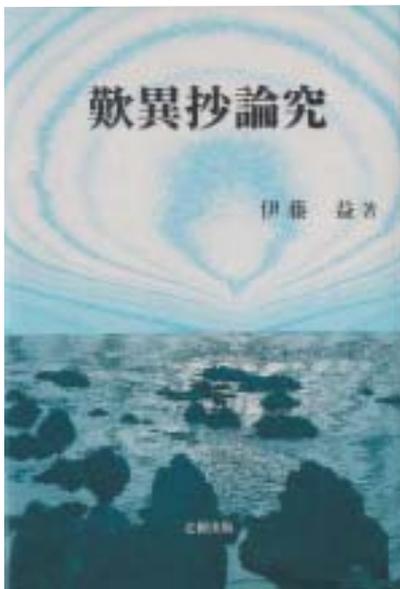
本書の最大の特長は「医師は看護師間のトラブルには口を出さないのが賢明である」(第9章, 病院における人間関係)や「妻の学歴が高いほど妻が支配的である傾向が強い」「夫婦関係を継続させるためには、お互いに相当の忍耐力と意図的な努力がなされなければならない」(ともに第3章, 家族の関係)などの、類書では書ききれなかった

伊藤 益

『歎異抄論究』

(北樹出版, 2003年)

〔中央 188.7-189〕



一般に親鸞の思想は「他力」の思想であるといわれている。けっして誤りではない。しかし、「他力」が親鸞思想の原点であり、親鸞のすべての思索はそこから導かれているという解釈は、決定的な誤りを犯している。「他力」は、親鸞がそこに向かって自己のすべての思索を収斂させた、思想的到達点である。本書は、親鸞晩年の高弟唯円の書『歎異抄』を逐条的に論究することによって、このことをあきらかにした。

『歎異抄』によれば、親鸞は、まず「信」とは何かを問う。わたしたちは、通常、「信」とは自身が能動的にもつものであって、自分が主体的に

「真実」とも言える内容が書かれていることです。人間関係は、毎日を楽しむものでもあり、悩ましくするものでもあります。確かに人付き合いは面倒くさいと感じることも多いですが、どうせ人と関わって生きていかななくてはならないのですから、仕事の上でも、日頃の生活でも、人間関係を楽しむ気持ちが大切です。そのための一冊であると言えます。

(とくだ・かつみ 社会医学系教授)

信じなければ「信」など起こりようもないと考えている。だが、こうした「信」についての主体的理解は、親鸞思想における「信」とは大きく食い違っている。親鸞は、「信」は超越者たる弥陀からわたしたちに与えられるものだと考えた。彼にとって「信」とは徹底して受動的なものであった。

親鸞が「信」をひとえに受動的なものにとらえるのには理由がある。それは、彼が、人間をすべからず悪しき者と見たからであった。自分たちと同じように「仏性」を備えた他の動植物を食べ、自身が生きるために常時他者を排除しなければならない人間。そのような排除の構造を抱え込んだ人間を、親鸞は存在論的に悪以外の何ものでもない存在者と見切った。

存在論的に悪なる人間は、倫理に関して無力である。彼は、いかにしても倫理的に善ではありえない。そのような存在者が自分の力で「信」を得ようとしてもかなえられるはずもない。もし、人間が「信」を獲得することができるのであれば、それは、彼が自己の悪性と無力とを自覚し、その自覚に基づいてすべてを弥陀の意思に委ねるという「他力」の立場に立つことによってである。親鸞は、そう考えた。したがって、「他力」とは、悪性の自覚に根ざした、主体的「信」の不可能性への認識から導き出された結論といわなければならない。本書の論旨は、およそ以上のとおりである。

(いとう・すすむ 哲学・思想学系教授)



掲示板

「筑波大学開学30周年（創基131年）記念附属図書館貴重図書特別展」について

今年は本学の開学30周年（創基131年）にあたりますので、これを記念して特別展を開催します。

附属図書館の所蔵する貴重図書は、筑波大学としての学術図書収集の結果であると同時に、図書館が明治5（1872）年開設の師範学校以来の前身校の旧蔵書を引き継いでいることから、前身校の性格と歴史も反映したものとなっています。

今回の特別展では、このような貴重図書の展示をとおして筑波大学および附属図書館の歩みをも見ていこうという企画のもとに、古代からの日本の学問と文学、および近代ヨーロッパの知を映す貴重図書の中から主要なものを選んで展示することになりました。貴重な資料を多数展示しますので、ぜひご覧ください。

会期：平成15年9月29日（月）～10月10日（金）

平日 9:00～17:00 土・日13:30～17:30

場所：中央図書館1階貴重書展示室及びグループ利用室、和装本閲覧室

主要展示資料等くわしくは以下の特別展のページをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/otakara/welcome.html>

図書館情報学系・図書館情報大学・附属図書館共催「筑波大学貴重書特別展示」について

日本図書館情報学会第51回研究大会に合わせて図書館情報学関連の貴重書の特別展示を開催します。同大会参加者をはじめ、一般にも公開するものです。

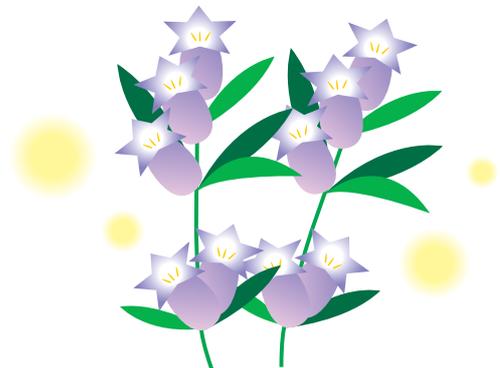
メディアミュージアムの常設展示に加え、図書館情報学図書館に所蔵する百科事典・辞典類を中心とした貴重書の展示を行います。

初公開資料としてL'Encyclopédie méthodique, 1782-1832. [パソックの『系統的百科全書』], Dictionarium latinogarillicum, 1538. [R. エチエンヌの『羅仏事典』], Journal sçavans, 1655-「初期雑誌『学者報知』」等を予定しています。

日時：平成15年10月25日（土） 13:00～18:00

10月26日（日） 13:00～17:00

場所：図書館情報学図書館 デジタルメディア部門メディアミュージアム



Let's Try文献検索



電子図書館トップページでは、論文作成や研究に必要な文献情報を入手するのに役立つデータベースを各種ご用意しています。

今秋もその利用法について、本学の学生や教職員の方を対象としたオリエンテーションを予定していますので、どうぞお気軽にご参加ください。

オリエンテーションメニューの内容

TULIPS

本学WWW版OPAC（蔵書検索）や電子ジャーナルなど電子図書館全般

雑誌記事索引（NACSIS-IR）

国内の雑誌や紀要掲載の論文情報

FirstSearch

米国OCLC提供の各分野の文献情報

Web of Science

全分野の文献、文献引用情報

JCR

雑誌のインパクトファクター

ScienceDirect

電子ジャーナル掲載の科学技術分野向け文献情報データベース

LexisNexis

法律・経済・ニュース等社会科学関係情報

医学中央雑誌

日本で出版された、医学・看護関連分野の文献情報

PubMed

医学分野における世界最大の文献情報データベース

CINAHL

看護関係の文献情報データベース

体育学関係

Sport Discus等を用いた論文検索方法

芸術学関係

ArtIndex等を用いた論文検索方法

図書館情報学

LISA等を用いた論文検索方法

電子ジャーナルとオンラインデータベース基礎

は難易度を示します。

定員：各回 10名

申込先：各図書館レファレンスデスク、および図書館のWebページ

***赤字のメニューはデータベース提供元スタッフを招いて行います。定員は無し、会場は他と異なります（下記の表参照）。スタッフから直接話を聞けるチャンス。質問事項等ある方はこの機会にぜひご参加ください！**

中央図書館：コンピュータ利用室（新館2F）

開催日	時間	メニュー
9月17日(水)	15:30 - 16:30	TULIPS
9月19日(金)	15:30 - 16:30	雑誌記事索引
9月24日(水)	17:00 - 18:00	雑誌記事索引
9月25日(木)	17:00 - 18:00	TULIPS
9月30日(火)	15:30 - 16:30	FirstSearch
10月2日(木)	15:30 - 16:30	雑誌記事索引
10月3日(金)	15:30 - 16:30	FirstSearch
10月6日(月)	15:30 - 16:30	TULIPS
10月7日(火)	14:00 - 15:30 本館2F集会室	* ScienceDirect
10月9日(木)	15:30 - 16:30	Web of Science
10月21日(火)	15:30 - 16:30	雑誌記事索引
10月22日(水)	17:00 - 18:00	FirstSearch
10月23日(木)	15:30 - 16:30	LexisNexis
10月28日(火)	15:30 - 16:30	LexisNexis
10月29日(水)	15:30 - 16:30	Web of Science
10月31日(金)	15:30 - 16:30	TULIPS

体芸図書館：情報検索コーナー（2F）

開催日	時間	メニュー
9月24日(水)	15:30 - 16:30	TULIPS
10月3日(金)	17:00 - 18:00	体育学関係
10月7日(火)	17:00 - 18:00	TULIPS
10月8日(水)	15:30 - 16:30	体育学関係
10月15日(水)	15:30 - 16:30	芸術学関係
10月22日(水)	15:30 - 16:30	雑誌記事索引

医学図書館：レファレンスデスク（1F）

開催日	時間	メニュー
9月24日(水)	15:30 - 16:30	TULIPS
9月29日(月)	15:00 - 17:00 教育用計算機室	* Web of Science(JCR)
10月2日(木)	15:30 - 16:30	PubMed
10月3日(金)	15:30 - 16:30	CINAHL
10月6日(月)	17:00 - 18:00	TULIPS
10月8日(水)	15:30 - 16:30	TULIPS
10月10日(金)	17:00 - 18:00	PubMed
10月14日(火)	17:00 - 18:00	CINAHL
10月16日(木)	17:00 - 18:00	医学中央雑誌
10月20日(月)	15:30 - 16:30	PubMed
10月21日(火)	15:30 - 16:30	医学中央雑誌
10月24日(金)	15:30 - 16:30	TULIPS

図情図書館：マルチメディアプラザ

(情報メディアユニオン1F)

開催日	時間	メニュー
9月24日(水)	15:30 - 16:30	TULIPS
10月10日(金)	17:00 - 18:00	図書館情報学
10月15日(水)	15:30 - 16:30	雑誌記事索引
10月22日(水)	15:30 - 16:30	図書館情報学
10月24日(金)	17:00 - 18:00	TULIPS
10月29日(水)	15:30 - 16:30	電子ジャーナルと オンラインデータベース基礎



【見学者】

アメリカ ロス・アラモス国立研究所職員

6月11日(水)

シンガポール Nanyang工科大学職員

6月20日(金)

タイ 上院訪日団一行

7月7日(月)

中国 壇國大学教授一行

8月11日(月)

【学外会議】

国立大学図書館協議会第50回記念総会

6月25日(水)から26日(木)の二日間に亘り、埼玉大学の担当によりさいたま市で開催された。今回は第50回記念総会ということで、文部科学省研究振興局長や国立情報学研究所長等を迎え盛大に行われた。

【学内会議】

第258回附属図書館運営委員会(6月)

議事として平成14年度版筑波大学年次報告書(附属図書館)について、平成15年度図書館資料購入計画(図書館経費)について等、報告事項として30周年記念附属図書館特別展企画検討委員会の進捗状況等の報告があった。

筑波大学附属図書館報 第29巻 第2号(通巻112号)2003年9月30日 筑波大学図書館部発行

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 電話029-853-2347

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>